

「比較の程度」を表す韓国語の強意語の一考察 －機能語化された語の共起関係を中心に－

A Study of Korean Emphatic Expressions Indicating "Comparative Level" :

Focusing on co-occurrence relationships of functionalized words

金 賢 珍
KIM HYUN JIN

Abstract

Emphasis is the intensification of the content and/or meaning of a statement, and it is generally considered that this the strengthening of the degree of modulation in the content's aspects of "attribution" "comparison" "summary" and "negation" etc. In this paper, emphatic expressions that indicate levels of "comparison" in Korean are taken up, and how each is used is examined. The objects of this examination are eleven expressions chosen based on their frequency of use and level of importance in dictionaries. These were then divided into comparatives and superlatives. The comparatives were further divided into three groups according to dictionary definitions—"more (더)" type, "even more (한층)" type, and "conspicuously (유독)" type—and then analyzed. As objective dimensions of the individual words are weak, importance was placed on the co-occurrence (collocation) relationship of the emphatic expression and modified word, after first confirming collocation relationships in parts of speech, analysis was attempted focusing on the modified emphatic content.

1.はじめに

「強意」とは漢字の字義通りに解釈すれば「話の内容・意味を強めること」であり、「強意表現」とは「そのための言語上の形式」ということである。強意表現は機能語化された狭義の強意語のものと機能語化されていない広義の強意表現のものまで考えられる。「強意」の内容面においても、従来は主にモノ・コトの性質・状態の「性状」の程度を表す語が取り上げられてきたが、ここから一歩踏み出して、程度の大きさだけでなく、その周辺的な意味領域として、「比較」「確実性」「概略」「否定」などの程度の高低を強める成分も含めて考えられる。

(1)a. 만나서 아주 기쁘다(会えてとてもうれしい)

- b. 이것이 가장 새 것이다(これが最も新しいものだ)
- c. 틀림없이 그 사람은 올 것이다(間違いなく彼は来るだろう)
- d. 거의 비슷한 이야기다(ほぼ似た話だ)
- e. 통 먹지를 못하다(全く食べられない)

(1a)の「아주(とても)」は「性状の程度」、(1b)の「가장(最も)」は「比較の程度」、(1c)の「틀림없이(間違いなく)」は「確実性の程度」、(1d)の「거의(ほぼ)」は「概略の程度」、(1e)の「통(全く)」は「否定の程度」の高低を表す強意語である。このうち、「比較の程度」を表す語は「性状の程度」を表す語とともに強意語の中心となると言えよう。

そこで、本稿では(1b)の「가장(最も)」のように、モノ・コトを比較した結果の程度を表す機能語化された狭義の強意語を中心に、今日用いられている韓国語の比較の程度を表す語にはどのような語があり、それぞれどのように使われているかについて考察する。

2. 先行研究及び本稿の分析方法

程度の高低を表す語は他の品詞に比べ話者の感情、心理状態による性質が目立つもので、その類義関係も多様に表れる。比較の程度を表す語も話者の感情状態によって使い方が大いに左右されるため、類義関係の意味把握による使い分けは重要なことである。しかし、各語の辞書の定義においても循環論的な解説に止まっているのが現状である。従来、韓国語において比較の程度を表す語は、程度副詞の一部として意味論的な立場から幾つかの語が扱われたもの(한길(1983), 정교환(1987), 손남익(1995))や通時的視点から程度副詞の範囲規定及び意味変化に注目したもの(서상규(1991), 최홍렬(2005))などに大きく分かれる。これらは程度性の持つ語と共起可能であることを概略的に示しながら枠組み的な議論に重点が置かれて類義関係にある語の使い方においては十分な説明がされていないように思われる。

本稿で考察する文の内容を強める強意語の意味・用法は2つの面から考えなければならない。一つはどのような内容を強めるかであり、もう一つはどのような方法で強めるかである。前者には意味論的なアプローチが必要であり、後者には統語論的なアプローチが要求される。しかし、本稿で考察対象とする強意語は、被修飾語に対してその意味合いを強化したり弱体化したりする働きをするのがその意味機能のほとんどすべてであり、個々の意味の違いを分析することがなかなか困難であるという性質がある。したがって、客観的な側面が希薄であることが詳細な分析をする上で大きな問題になる。強意語に関する従来の研究が実質的に乏しいのはこのためであると考えられる。そこで本稿では、比較の程度を表す強意語がどのような語の修飾に用いられているか、つまり強意語と被修飾語の共起関係に重点をおいて考察することにする。共起関係に関しては、まず品詞別の共起関係を確認した上、修飾する強意内容に焦点を当てて分析を試みる。実質的意味内容の乏しい強意語を互いに区別し個々の特性を明らかにするには、この方法が最も有効であると判断されるからである。

3. 分析対象とする語と言語資料

3.1 分析対象とする語

本稿の考察対象語の範囲を決めるには、まず、比較の程度を表す機能語化された語に対する全体像を把握する必要があると判断し、言語生活の基礎となる語が収録されていると見られる辞書を選定して、その中から比較の程度を表すと判断されるものを拾い出すことにする。以下の6冊の辞書を対象とする¹⁾。

- ・李熙昇編著(1983)『国語大辞典』民衆出版社
- ・大阪外国語大学朝鮮語教室編(1986)『朝鮮語辞典(上巻・下巻)』角川書店
- ・金星出版社辞典チーム編(1987)『ニューエース国語辞典』金星出版社
- ・金星出版社編(1991)『金星版国語大辞典』金星出版社
- ・油谷幸利・門脇誠一・松尾男・高島淑郎編(1993)『朝鮮語辞典』小学館
- ・延世大学言語情報開発研究院編(1998)『延世韓国語辞典』斗山東亜

これらの辞書から比較の程度を表す語は延べ語数 57 語が見られたが²⁾、日常生活での使用状況にはかなり偏重な偏りも見られ、よく使われるものもあればほとんど使用されないものもある。したがって、本稿では使用傾向を考慮して分析対象として扱う語は、『朝鮮語辞典』（三省堂、1993）の重要度と本稿の用例調査による使用頻度に基づいて、以下のように 11 語を取り上げて考察を進める。

表 1. 分析対象とする韓国語の比較の程度を表す語

가장(最も), 제일(一番), 더(もっと・さらに), 덜(少なく・少なめに), 더욱(もっと・さらに), 한층(いっそう・ひときわ), 한결(ひとしお・いっそう), 훨씬(ずっと・はるかに), 유독(ひときわ・目立って), 유난히(ひときわ・際立って), 유달리(格別に・とりわけ)
--

表 1 で取り上げた比較の差を表す強意語を、「가장(最も)」のような最上級を表すものと「더(もっと)」のような比較級を表すものの 2 つに分けられる。

- (2) 이것이 가장 새 것이다(これが最も新しいものだ)
 반에서 수미가 제일 예쁘다(クラスでスミが一番かわいい)
- (3)a. 비가 더 세게 내리다(雨がもっと強く降ってくる)
 b. 한층 열심히 일하다(いっそう熱心に働く)
 c. 하늘이 유독 푸르게 보인다(空がひときわ青く見える)

(2) は最上級を表すもので、(3) は比較級を表すものである。さらに、(3) は辞書の定義に基づ

き類義関係にあると判断される語をそれぞれ(3a)の「더(もっと)」類, (3b)の「한층(いっそう)」類, (3c)の「유독(ひときわ)」類の3つのグループに分けて考察する。

3.2 調査対象とする言語資料

事柄の程度を判断しそれを表現するという事は、発話時の話者の主観的な感情に依存しやすい傾向が強い。比較の程度を表す語に関しても同様なことが言えよう。したがって、本稿で用いられる資料は主として活字資料を参考とすることにする³⁾。活字資料に限ったのは、できるだけ標準的な表現を資料としたいからである。本稿では、出版された小説、随筆などの作品から収集した用例に基づき、共起関係の分析を進める。しかし、実例が見当たらない場合などは必要に応じて作例を使う場合もある。本稿で用いた資料は以下のとおりである。

表2. 本稿で調査対象とする言語資料

・小説：『父』 他7冊	・随筆：『因縁』 他4冊
・雑誌：『セムト』 他2冊	・台本：『冬のソナタ』 他1冊
・童話：『韓国語名作童話1』 他1冊	
・新聞：東亜日報社説(2006年1月～12月)	

4. 比較の程度を表す語の共起関係

4.1 最上級を表すもの

物事の程度が比較対象の間で最も高いことを表す強意語として「가장(最も)」と「제일(一番)」の2語を取り上げる。辞書には次のように記述されている⁴⁾。

- ・ 가장 : (여럿 가운데에서) 으뜸으로 ((多数の中で)第一に), 제일로 (一番に)
- ・ 제일 : 가장 (最も)

(1) [가장] (最も, 何より, 一番, 最高に, 非常に)

(2) [제일] (一番, 最も)

「가장」も「제일」も、3つ以上のものの中で一番上であること、一番初めに位置することを表す。語源的にみると「가장」は固有語の本来的強意語であるが、「제일」は漢字語名詞「第一」が強意語として転用されたものである。この違いは一部の用法に影響を与えている。この2語と共起する語は次のとおりである。

(4)a) 내 생애에서 밝아보는 가장 높은 지대고, 앞으로의 일정을 보면…。(私の人生で踏んでみる最も高い地帯で、これからの日程を見ると…。)⁵⁾

“나를 가장 슬프게 하는 것은 아빠에게 애인이 생겼을 때”라고 써 놓은 것을 보았

다. (「私を最も悲しくするのは父に恋人ができたとき」と書いておいたのを見た。)

남의 옷만 지어 주고 살아온 여인, 신부 옷을 짓는 게 제일 기쁘다고. (人の服ばかり作りながら生きてきた女の人, 新婦の服を作るのが最も嬉しいと。)

“일할 때는 무엇보다도 상대방이 편한게 제일 중요하죠.” (「仕事をするときは何よりも相手がリラックスできるのが一番大事でしょう。)

- b) 그가 가장 사랑하는 자기 작품은 <가실>이었다. (彼が一番愛する自分の作品は〈ガシル〉であった。)

값싼 주정 같아서 영신이 제일 싫어하는 행동 중의 하나였다. (安っぽい酒乱のようでヨンシ나가一番嫌がる行動の中の一つであった。)

- c) “그 이야기는 앞에서 깨자마자 제가 들은 가장 처음의 이야기입니다.” (「その話は卵から出るやいなや私が聞いた一番最初の話です。)

급기야 제일 왼쪽의 유리를 터서 또 하나의 주방을 배치했다. (結局は一番左側のガラスをなくしてもう一つの厨房を作った。)

실로 내가 제일 오랫동안 연구에 고심을 한 것이 이것입니다. (実に私が最も長い間研究に苦勞したのがまさにこれです。)

한쪽 팔과 한쪽 눈이 없는 못생긴 이 꽃게는 꽃게들중에서 가장 망나니였습니다. (片っ方の腕と片っ方の目が無い醜いこのカニはカニの中で一番ごろつきでした。)

- d) 전에 한 번 봤는데 돌아가신 회장님을 가장 많이 닮았더군요. (「前一度見たが亡くなった会長に最も似ていました。)

꽃핀을 제일 먼저 머리에 꽂아야 할 사람은 바로 은미예요. (花模様のピンを最も先にする人は他でもなくウンミです。)

노무현 대통령의 외교 안보 철학을 가장 잘 이해하고 있어서라고 한다. (ノムヒョン大統領の外交安保哲学を最もよく理解しているからだという。)

形容詞に関しては, 「가장」も「제일」も(4a)のように「높다(高い)」, 「슬프다(悲しい)」, 「기쁘다(嬉しい)」, 「중요하다(重要だ)」という事柄の外面的・内面的な状態あるいは感情を表す様々な語と共起する。また(4b)の例のように「사랑하다(愛する)」, 「싫어하다(嫌う)」のような感情・心理的状态を表す動詞とも共起してその程度の大きさを強調する。名詞と共起する(4c)の例では, 「처음(はじめ)」, 「왼쪽(左側)」, 「오랫동안(長い間)」のような時間あるいは空間を意味する名詞を修飾しているが, 「망나니(ごろつき)」のような名詞とも結びつくこともある。副詞と共起する場合は, (4d)のように「많이(多く)」, 「먼저(先に)」, 「잘(よく)」のような数量, 時間, 様態を表す副詞と共起する。両者の間に意味上の違いはまったくなく, 互いに入れ替えが可能であると判断される。

「가장」と「제일」は(4)におけるように状態あるいは感情を表す語とはよく共起するが, (5)のように「먹다(食べる)」, 「달리다(走る)」のような動作を表す語を直接修飾できない。ただし, 「많이(多く)」, 「빨리(速く)」, 「잘(よく)」のような何らかの状態副詞を介在させれば共起可能である。

- (5) *우리 아이가 가장(제일) 먹다 ⇔ 우리 아이가 가장(제일) 많이/잘 먹다
 (うちの子が一番食べる) (うちの子が一番多く/よく食べる)
 *저 말이 가장(제일) 달리다 ⇔ 저 말이 가장(제일) 빨리/잘 달리다
 (あの馬が一番走る) (あの馬が一番速く/よく走る)

以上のように、「가장」と「제일」はほとんどの場合に入れ替えが可能であるが、用法がまったく同じというわけではない。「제일」は(6a)のように、指定詞あるいは助詞と結合して、「제일+이다(〜だ)」、「제일+의(の)+名詞」の形で名詞としても用いられるが、この場合の「제일」を「가장」に置き換えると(6b)のように不自然になる。

- (6a) 사람은 건강이 제일이다(人は健康が一番だ)
 명동이 제일의 번화가이다(明洞が一番の繁華街だ)
 b) *사람은 건강이 가장이다(人は健康が一番だ)
 *명동이 가장의 번화가이다(明洞が一番の繁華街だ)

(6b)が不自然であるのは、前述のように「제일」が名詞から転成された語であり、名詞としての性格を保持しているからであると考えられる。

文体的に見ても、「가장」に比べて「제일」の方がより口語的であり、日常的な会話においては「제일」の方が圧倒的に多く用いられる。「제일」には(7)のように「쩨」 という形の縮約形があり、くだけた会話でよく用いられる。この場合は幼稚な感じを伴うこともある。「쩨」は「제일」の縮約形でありながら、副詞的な機能しかなく(6a)のように名詞的に用いられることはない。

- (7) “사장님이 우리 중에 인기가 쩨 많은 거 같아요.” (「社長が私たちの中で一番人気があるようです。」)
 “사람이 만든 것 중에 쩨 평등한 게 소주라나, 뭐라나, 하면서…” (「人が作ったものの中で最も平等なのが焼酎だとかなんとか言いながら…。」)

以上の共起関係を品詞ごとにまとめると次のとおりである。

	名詞		動詞			形容詞		副詞	
	状态的	具象的	動作的	感情的	状态的	感情的	状态的	「가장」類 +副詞	副詞+ 「가장」類
가장	+	+	-	+	+	+	+	+	-
제일	+	+	-	+	+	+	+	+	-

4.2 比較級を表すもの

比較級を表す主な強意語として「더(もっと)」、「덜(より少なく)」、「더욱(さらに)」、「한층(いっそう)」、「한결(ひとしお)」、「훨씬(はるかに)」、「유독(際立って)」、「유난히(ひとときわ)」、「유달리(格別に)」の9語を取り上げる。

4.2.1 「더」類

「더(もっと)」類には、「더(もっと)」、「덜(より少なく)」、「더욱(さらに)」の3語を取り上げる。辞書には次のように記述されている。

- 더 : (비교의 대상보다, 또는 주어진 기준보다) 정도가 크게((比較の対象より,あるいは与えられた基準より)程度が大きく)
- 덜 : 일정한 상태가 정도에 미치지 못하게(一定の状態がある程度に届かないように), 낮거나 적은 정도로(低いあるいは少ない程度に)
- 더욱 : 한층 더(より一層), 더 크게(さらに大きく), 더 많이(さらにたくさん)

(1) [더] (もっと, さらに, より多く, よりいっそう, ますます, なおさら)

「더」は, 比較の強意語として最も一般的なものである。これは英語の‘more’に相当し, 比較の対象となり得る程度性を持つ語であれば, どのような語とも共起する。

(8)a) 엄지는 엄지대로 자기네 송아지가 더 크고 더 빠르다고 뽐내었습니다. (オムジはオムジなりに自分の子牛がもっと大きくてもっと速いと威張りました。)

은 세상에 나 혼자밖에 없다는 생각보다 더 무섭고 끔찍한 건 없을 테니까요. (世の中に私一人しかいないという思いよりもっと怖くて残酷なことはないからです。)

b) 그렇게 되면 정부는 커지고 계층 간 갈등은 증폭돼, 경제가 더 멎고 사회도 더 갈라지고 만다. (そうなると政府は大きくなり階層間の葛藤は増して, 経済がさらに傷つき社会ももっと分裂してしまう。)

“그리고 고모가 그것보다 더 싫어하는 사람들은 이 세상에 아무 기준도 없다고 생각하는 사람들이야.” (「そして私がそれよりもっと嫌う人たちはこの世の中に何の基準もないと思う連中なのよ。」)

미끼가 거의 떨어져가면 소쿠리 안에서 새들은 치고 받고 더 먹으려고 법석을 떨 것이다. (餌がほとんどなくなっていくとざるの中で鳥たちはもっと食べようと騒ぎ立てるだろう。)

울다가 더 울 수 없으면 엄마 생각을 했다. (泣いてもうそれ以上泣くことができなくなると母のことを思い出した。)

(8a)は, 「크다(大きい)」、「빠르다(速い)」のような性状形容詞あるいは「무섭다(怖い)」、「끔찍하다(残酷だ)」のような感情形容詞と共起し, それぞれの程度が何かに比べて大きいこ

とを表している例である。一方, (8b)は, 「멍들다(あざができる)», 「갈라지다(分かれる)», 「싫어하다(嫌いだ)」のような変化動詞あるいは感情動詞と共起して, 状態・変化あるいは感情の度合いがより大きいことを表したり, 「먹다(食べる)», 「울다(泣く)」のような動作性動詞を修飾して, 数量あるいは分量がより多いことを表している例である。

比較の対象は比較の助詞「-보다(より)」や「~에 비해(~に比べて)」のような句によって表されるが, 文脈から明らかであったり特定できない場合には, (8)のほとんどの例においてそうであるように省略されるのが普通である。また逆に, 比較の基準が明示される場合には, 「더」を省略することが可能である。

- (9) a) 민주주의를 더 적극적으로 구현하자는 취지다. (民主主義をより積極的に具現しようという趣旨である。)
 사실일지라도 발언자의 ‘책임회피 체질’이 더 절망적이다. (事實であっても発言者の‘責任回避体質’がさらに絶望的である。)
- b) 문제는 현 정권의 ‘남은 1년 반’이 더 걱정이라는 점이다. (問題は現政権の‘残りの1年半’がさらに心配だという点である。)
 안으로 들어갈수록 방은 더 난장판이었다. (中に入るほど部屋は更に修羅場であった。)
 말잔등보다 더 위에 있는 뱀 꼬리로 옮겨 앉았다. (馬の背中よりさらに上にいる蛇に移って座った。)
- c) 하지만 더 이상 슬프지 않았지요. (しかしそれ以上は悲しくありませんでした。)
 아버지는 고개를 끄덕인 뒤 더 이상 아무 것도 묻지 않았었다. (父親は肯いた後それ以上何も聞かなかった。)

(9a)は, 「적극적(積極的)», 「절망적(絶望的)」のように「더」が接尾辞「적」による状態名詞と共起している例である。(9b)は, 「걱정(心配)», 「난장판(修羅場)」という程度性を含意する名詞を「더」が修飾し, ある事柄の状態に比べてその程度が大きいことを表したり, 「위(上)」というような位置名詞を修飾して距離がいっそう離れていることを表している例である。また(9c)は, 他の比較強意語とは異なって「더」が名詞の「이상(以上)」と共起して「더 이상(それ以上)」の形で比較強意表現として使われている例である。ちなみに, この表現は否定文において用いられるが, 「이상」には副詞的用法がないため, 「더」を省くことはできない。また, (9c)のように「더 이상」を用いる文では比較対象を明示することはできない。

- (10) a) 자유와 시장의 깃발을 더 높이 들어야 한다. (自由と市場の旗印をもっと高く掲げなければならぬ。)
 지금도 당과 청와대가 이 일로 갈등을 겪고 있음을 이 실장이 더 잘 알 것이다. (今も党と青瓦台がこのことで争っていることを李室長がもっとよく知っているだろう。)
 자원은 한정되어 있는데 언제까지 더 많이 만들고 더 많이 소비할 것인가. (資源は限られているのにいつまでももっと多く作ってもっと多く消費するつもりなのか。)

- b) 한미 FTA 에 대해서는 미국보다 우리쪽이 훨씬 더 절실함을 느끼고 있다. (韓美FTA에 대해서는アメリカよりわが国の方がはるかにもっと切実さを感じている。)
대통령은 북핵을 좀 더 냉정한 눈으로 봐야 한다. (大統領は北朝鮮の核の問題をもう少し冷静な目で見なければならぬ。)
책을 들고 앉아 그 따사한 봄볕에 읽는 것은 한층 더 싱거울 것 같습니다. (本を持ってその暖かい春の日差しの中で読むのはよりいっそうつまらない気がしました。)
나는 점점 더 묘한 생각이 들었습니다. (私はだんだんもっと妙な気がしました。)
- c) 아직 두 시간 더 있어야 된단다. (まだあと2時間経たなければいけないんだって。)
그래서 축이 가는 만년필을 하나 더 사왔다. (それでペン先が細い万年筆をもう一つ買ってきた。)
일주일 더 기다려 볼 생각이다. (さらに1週間を待ってみるつもりだ。)

(10a)は「더」が副詞を修飾している例であり、「높이(高く)」、「잘(よく)」、「많이(多く)」という距離, 時間, 様態, 数量の程度が比較されている。また(10b)では, 「더」自体が「훨씬(はるかに)」、「좀(ちょっと)」、「한층(いっそう)」、「점점(だんだん)」という強意副詞の修飾を受けている。さらに(10c)では, 他の比較を表す強意語とは異なって「두 시간(2時間)」、「하나(一つ)」、「일주일(一週間)」という数量表現によって比較されるものの間の差が具体的に示されている。

(2) [덜] (少なく, 少なめに, いくぶん少なく)

「덜」は「劣等比較」を意味する強意語であり, 英語の'less'に相当する。用法は「優等比較」を意味する「더」とほとんど同じである。

- (11) a) 천장에 바퀴벌레라도 한 마리 지나가면 덜 심심할 거야. (天井にゴキブリでも一匹通って行けばそんなにつまらなくはないだろう。)
“이럴 때 선생님이라도 옆에 있어주면 덜 외롭잖아.” (こんなときは先生でもそばにいてくれればそんなに淋しくないじゃないか。)
“그런 식으로 얘기하면 마음이 덜 아파?” (そんなふうに話せば心の痛みが和らぐの?)
민주화 심의위는 이번에 가담 정도가 덜 무거운 29 명을... (民主化審議委は今度の加担の程度がそれほど重くない29名を...)
그 때 정우는 낚시 기구가 덜 좋기 때문이라 생각했다. (そのときジョンウは釣道具があまりよくないからだと思った。)
- b) “생각보다 길이 덜 막혔어. 저녁은?” (思ったよりそんなに渋滞しなかったよ. 夕ご飯は?)
“물론 그 순간은 괴롭겠지만 그게 그 사람이 상처를 덜 받는게 아닌가 해서요.” (「もちろん, その瞬間はつらいだろうけれど, その方がその人がより傷つかないんじゃないかと思ってることです。」)

“그래야 조금이라도 서로 덜 마주 보잖아.” (「そうすれば少しでも互いにあまり向かい合
わなくて済むだろう。」)

덜 뻥 토란대를 먹은 것처럼 목구멍은 가시칠망이 처진 듯하다. (十分洗ってない芋が
らを食べたように、喉は鉄条網が張られているようだ。)

세금을 내지 않거나 덜 내면 본인에게 책임이 있다니 이와 관련된 불만도 겹칠듯
하다. (税金を払わなかったり十分に払わなかったりすると本人に責任があるというのでこれと
関連した不満も重なるようだ。)

생활비가 덜 든다며 만족스러워했다는 얘기가 보도되기도 했다. (生活費が少しから
なくなったといって満足げだったという話が報道されたりもした。)

(11a)は, 「덜」が感情や性状を表す形容詞「심심하다(退屈だ)」、「외롭다(寂しい)」、「아프다(痛
い)」、「무겁다(重い)」、「좋다(いい)」などと共起して, その程度が何らかの比較基準よりも低
いことを表している例である。(11b)では, 「덜」が「비참해지다(惨めになる)」、「막히다(渋滞
する)」、「상처를 받다(傷つく)」という変化動詞と共起して, その程度が比較基準より低いこ
とを表している。また, 「마주보다(向かい合う)」、「빨다(洗う)」という動詞を修飾する場合に
は, 各々の動作が十分行われていないことを表している。さらに, 「내다(払う)」、「들다(かか
る)」のような数量的な意味を含む動詞を修飾する場合には, 劣等比較を意味する数量副詞とし
て用いられている。

「덜」が名詞と共起する実例は見られなかったが, (12)に示すように位置名詞の他には共起
制限は認められないと見られる。

- (12) 지금이 덜 구체적/절망적이다(今が(前より)具体的/絶望的ではない)
수미가 덜 미인/문제아이다(스미가(誰それより)美人/問題児ではない)
결과가 덜 문제/걱정이다(結果が(前より)問題/心配ではない)
*사과가 덜 위에 있다(링고가(他より)上にない)

「더(もっと)」とは異なり「덜」が副詞を修飾することはないようである。しかし, 「덜」自
体が「좀(ちょっと)」、「조금(少し)」のような他の強意語によって修飾されることはある。

- (13) 애국가 불러줘, 그러면 좀 덜 춥거든...(愛国歌歌ってくれ, すると少しは寒くなるから
...)
그렇게 세상의 쾌락이나마 즐기고 가야 조금은 덜 억울하지 않을까도 싶었다.(このよ
うに世俗の快樂でも楽しんでいくことができるならば少しは悔しさも和らぐかとも思った。)

(3) [더욱] (もっと, さらに, なお, いっそう)

副詞「더욱」は, 古語の動詞「더으다(増す)」に副詞形接尾辞「옥/욱」が付いて派生された
ものであり, 程度がより大きいことを表す。次のように, 品詞の別なく多様な語と共起する。

- (14) a) 더욱 적을수록 더욱 귀하다.(さらに少なければさらに尊いことだ。)
오랜만에 찾아든 고향은 더욱 낯설고 스산하기만 했다.(久しぶりに訪ねてきた故郷はいっそう見慣れてなく冷たいだけであった。)
억지스러운 그의 여유가 더욱 애처로웠다.(わざとらしい彼の余裕がもっと不憫だった。)
이 실장의 경제 현실에 대한 인식은 더욱 한심하다.(李室長の現経済に対する認識はさらに情けないものだ。)
- b) 이삿짐을 상상하면 더욱 가난을 느끼게 된다.(引っ越しの荷物を想像するといっそう貧しさを感ずるようになる。)
아름다운 사랑에서 시작된 결혼이기에 더욱 축하한다.(美しい愛から始まった結婚だからさらにおめでたい。)
이 만남을 끝으로 이 남자는 더욱 서두를 것이다.(この出会いを最後にこの男はさらに急ぐだろう。)
퇴원을 하는 게 기뻛고, 아빠와 여행을 떠난다는 사실은 더욱 신났지요。(退院のことが嬉しく、父と旅行に出かけるということがもっと楽しかったです。)
- c) 그러기에 더욱 현실적인 판단이 요구된다.(だからもっと現実的な判断が要求される。)
김일성 주체사상에 심취했었거나 간첩활동까지 벌였던 인사들의 증언이라 더욱 충격적이었다。(キム・イルソンの主体思想に染まっていたりスパイ活動までしたりしていた人たちの証言だったからさらに衝撃的だった。)
- d) 남 박사는 더욱 자주 시계 쪽으로 눈길을 주었다。(ナム博士はさらに頻繁に時計の方に視線を送った。)
재미에 빨려들다 보니 더욱 깊이 빠져들게 되고……。 (面白さにはまってさらに深くはまっていくようになって……。)
할아버지는 둥글넓적한 얼굴에 웃음을 띠며 더욱 빨리 샷대를 짚었습니다。(おじいさんは丸く平たい顔に笑みを浮かべながらさらに速く棒を漕ぎました。)

形容詞を修飾する場合, 「더욱」は(14a)のように「적다(少ない)」, 「귀하다(大事だ)」, 「낯설다(見慣れない)」などの性状形容詞とも, 「애처롭다(不憫だ)」, 「한심하다(情けない)」のような感情形容詞とも共起する。動詞と共起する場合には, (14b)のように「느끼다(感じる)」, 「축하하다(祝う)」, 「서두르다(急ぐ)」, 「신나다(浮かれる)」など状態や感情を表す語と共起することが多い。しかし, 「더(もっと)」 「덜(少なく)」とは異なり, 「더욱」は, 次のように「먹다(食べる)」, 「사다(買う)」など行為の数量的な意味を持つ語と共起するには, 「잘(よく)」, 「많이(多く)」のような様態・数量を表す語を介在させる必要がある。

- (15) a) 밥을 더 먹다(ご飯をもっと食べる)
사과를 더 사다(りんごをもっと買う)
- b) *밥을 더욱 먹다(ご飯をもっと食べる)
⇔ 밥을 더욱 잘 먹다(ご飯をもっとよく食べる)

- *사과를 더욱 사다(りんごをもっと買う)
 ⇔ 사과를 더욱 많이 사다(りんごをもっと多く買う)

(14c)のように名詞と共起する場合は、「현실적(現実的)」、「충격적(衝撃的)」のような接尾辞「적」による抽象的な概念を修飾するのがほとんどであり、「더욱」が「미인(美人)」、「문제아(問題児)」のような具象名詞を直接修飾することはない。ただし、(16b)のように「~이/가 되다(~になる)」という動詞を用いた変化・状態表現では別である。

- (16) a) *수미는 더욱 미인이다(スミはもっと美人だ)
 *수미는 더욱 문제아이다(スミはもっと問題児だ)
 b) 수미는 더욱 미인이 되다(スミはもっと美人になる)
 수미는 더욱 문제아가 되다(スミはもっと問題児になる)

「더욱」は、(14d)に例示したように「자주(よく)」、「깊이(深く)」、「빨리(速く)」などの頻度・様態を表す副詞とよく結びつく。しかし、「더욱」自体を他の強意副詞で強調することはできない。この点で「더(もっと)」とは用法が異なる。

また、「더(もっと)」を用いた比較表現では、必要に応じて「-보다(より)」、「~에 비해(~に比べて)」などの表現によって比較基準を明示することができることを指摘したが、「더욱」を用いる場合には(14)で見られるように比較基準を明示することはできない。比較の基準は常に文脈において了解されている。この点においても「더(もっと)」との用法上の違いが見られる。

「더욱」の意味を強めるには、「더(もっと)」と組み合わせて「더욱더(なお一層)」あるいは「더더욱(なお一層)」の形にしなければならない。上に挙げた用例のほとんどにおいて、「더욱」をこれらの重複強調形に置き換えることが可能である。

以上の共起関係を品詞ごとにまとめると次のとおりである。

	名詞		動詞			形容詞		副詞	
	状态的	具象的	動作的	感情的	状态的	感情的	状态的	「더」類 +副詞	副詞+ 「더」類
더	+	+	+	+	+	+	+	+	+
덜	+	±	+	+	+	+	+	-	+
더욱	+	-	-	+	+	+	+	+	-

4.2.2 「한층」類

「한층(いっそう)」類には、「한층(いっそう)」、「한결(ひとしお)」、「훨씬(はるかに)」の3語を取り上げる。辞書には次のように記述されている。

- 한층 : (기존의 상태에서) 더욱 ((既存の状態でもっと), 한 단계 더 (さらに一段), 한결 (ひとしお)
- 한결 : (상태, 정도 등이 이전에 비해) 한층 더 ((状態, 程度などが前に比べて)より一層), 훨씬 더 (より一層)
- 훨씬 : (무엇에 비해) 정도가 더하거나 심하게 ((何かに比べて)程度がより大きくより甚だしく), 아주 많이 (とても多く)

(1) [한층] (いっそう,ひとしお,ひときわ,もっと)

「한층」は、数詞の「한(一つの)」と依存名詞「층(層, 階)」とを組み合わせた語であり、ある基準から一段階上への変化を表す。「일층(いっそう)」あるいは「가일층(よりいっそう)」とほとんど同義であるが、ここでは最もよく使われる「한층」だけを取り上げる。

「한층」は共起制限がきびしく、基本的には変化動詞としか共起しない。

- (17) a) 아이의 투병이 계속되면서 그 감정의 교류는 한층 활발해진 셈이었다. (子供の闘病が続く中でその感情の交流はいっそう活発になったということだった。)
터널을 벗어나 빛 가운데로 가느냐, 되돌아 한층 깊어진 어둠을 향해 갈 것이냐. (トンネルを抜け出して光の中に向かって行くのか、戻っていっそう深まった闇に向かって行くのか。)
희망을 파는 자동 판매기가 나오고부터 도시는 한층 활기가 넘치는 듯하였다. (希望を売る自動販売機が出てから都市はいっそう活気に満ちているようだった。)
- b) 우리가 부닥치게 될 '미묘한 변화'는 이런 기류와 움직임들이 교직(交織)됨으로써 한층 다층적인 형태를 띠는 것이다. (我々がぶつかるとであろう微妙な変化はこんな気流と動きが交織されることでいっそう多層的な形態を帯びることになると思われる。)
- c) 나라가 위기에 처할수록 정부는 국민이 최대한 안심할 수 있도록 국정 챙기기에 한층 더 노력해야 한다. (国が危機に直面するほど政府は国民が最大限安心できるように国政のためによりいっそう努力すべきである。)

(17a)의 예에서는, 「한층」가 「활발해지다(活発になる)」, 「깊어지다(深かまる)」, 「넘치다(溢れる)」という変化動詞あるいはそれに準ずる動詞と共起して、変化の結果状態が一段階高まったことを表している。(17b)의 形の上では, 「한층」가 名詞表現의 「다층적이다(多層的だ)」를 修飾しているように見えるが, 意味の上から見れば, 後続의 変化を 含意する 動詞「띠다(帯びる)」にかかっていると考えるべきである。「한층」は「一段階上への変化」を表すものであるから, 変化とは関係のない形容詞や名詞とは共起できないが, これらを変化の結果を表す文にすると共起可能となる。

- (18) a) *날씨가 한층 좋다(天氣がいっそういい)
*이야기가 한층 슬프다(話がいっそう悲しい)

- *수미는 한층 미인이다(スミはいっそう美人だ)
 b) 날씨가 한층 좋아지다(天氣がいっそう良くなる)
 이야기가 한층 슬퍼지다(話がいっそう悲しくなる)
 수미는 한층 미인이 되다(スミはいっそう美人になる)

(17c)は「한층」が比較副詞の「더(もっと)」を修飾する例であるが、「한층」が副詞修飾に用いられるのは「더(もっと)」あるいは「덜(より少なく)」を修飾する場合だけに限られ、他の様態や数量副詞などを修飾することはできない。

(2) [한결] (ひとしお, いっそう, はるかに)

「한결」は、何らかの基準に比べて程度が一段と高いことを表す強意語である。意味的には「한층(いっそう)」に似ているが、用法的には異なる点がかなりある。

- (19) a) 예상보다 한결 똑똑했기 때문일까.(予想よりずっと利口だったからだろうか。)
 처음보다는 써나가기가 한결 수월했다.(最初よりは書くのがずっと楽だった。)
 b) 4월에 접어들어 날씨가 한결 따뜻해졌다.(4月になって天氣が一層暖かくなった。)
 그래도 기분이 좀 가라앉기는 했는지 아까보다는 한결 혈색이 좋아졌다.(それでも気持ちが少し落ち着いたのか先よりはずっと顔色がよくなった。)
 “확 다 토해버리세요. 그러면 한결 낫잖아요.”(「全部吐いてしまってください。するとずっとよくなるでしょう。」)
 뜨거운 라면에 찬밥을 말아 먹고 나니 한결 기운이 납니다.(熱いラーメンに冷や飯を入れて食べたら、一段と元気になりました。)

「한결」の共起関係をみると、(19a)は形容詞と、(19b)は動詞と共起する場合である。「한층(いっそう)」が形容詞の修飾に用いられないことを上に指摘したが、「한결」は(19a)のように形容詞との共起が可能である。状態を表す形容詞「똑똑하다(賢い)」、「수월하다(容易だ)」を強調する例である。動詞の場合は、(19b)のように、「따뜻해지다(暖かくなる)」、「좋아지다(よくなる)」、「낫다(よくなる)」、「기운이 나다(元気になる)」など変化動詞とよく共起する。比較基準は、助詞の「-보다(より)」の他に、「~하고 나니(~し終わって)」、「~하면(~すれば)」などの副詞的接続形がよく用いられる。形容詞であれ動詞であれ、「한결」と共起する語は状態を表す肯定的な意味を持つ語である。次のように、否定的な意味を表す語、感情・感覚を表す語とは共起しにくい。また、「한결」には数量的強意語としての用法もない。

- (20) a) *수미는 한결 가난하다/못생기다(스미はいっそう貧しい/醜い)
 b) *나는 한결 기쁘다/아프다(私はいっそう嬉しい/痛い)
 c) *아이는 한결 먹다/사다(子どもはいっそう食べる/買う)

名詞と共起することもあるが、その場合, (21a)のように状態性の意味を表す「名詞+이다(〜だ)」の形式とは共起しにくく, (21b)のように「名詞+(으)로 되다(〜になる)」, 「名詞+이/가 되다(〜になる)」などの変化表現にする必要がある。この場合にも, 「미인(美人)」, 「부자(金持ち)」のような肯定的な意味を持つ語とは共起するが, 「걱정(心配)」, 「절망적(絶望的)」のような否定的な意味を持つ語とは共起しにくいと見られる。

- (21) a) *수미가 한결 미인/부자이다(スミがいっそう美人/金持ちだ)
*결과가 한결 걱정/절망적이다(結果がいっそう心配/絶望的だ)
b) 수미가 한결 미인/부자가(로) 되다(スミがいっそう美人/金持ちになる)
*결과가 한결 걱정/절망적이 되다(結果がいっそう心配/絶望的だ)

副詞との共起は, 「한층(いっそう)」と同様, 優等比較の強意語「더(もっと)」と劣等比較の強意語「덜(より少なく)」を修飾する場合だけに限られる。「한결」自体が他の強意語によって修飾されることもない。

- (22) a) 한결 더 좋다/걱정이다(よりいっそういい/心配だ)
b) 한결 덜 좋다/걱정이다(いっそうよくない/心配ではない)

(3) [훨씬] (ずっと, はるかに)

「훨씬」は, 較差が甚だしいことを表す強意語として最も頻繁に用いられるものである。

- (23) a) 내가 보기에요 지난번 기사보다 이번 기사가 훨씬 좋더라고요.(私からみても前の記事より今回の記事がずっとよかったですよ。)
누워서 보는 세상은 서서 보는 것보다 훨씬 넓다.(横になってみる世界は立ってみる世界よりずっと広い。)
“생각했던 것보다 훨씬 젊네.”(「思ったよりずっと若いね。」)
그러나 지금의 안보환경은 훨씬 불안한 상태다.(しかし, 今の安保環境ははるかに不安な状態だ。)
b) 우리 가족 모두는 전보다 훨씬 나아질 것이다.(うちの家族全員は前よりずっとよくなるだろう。)
한나절이 훨씬 지났습니다.(半日がとっくに過ぎました。)
c) 북경보다 훨씬 남쪽이었는데도 바다를 면하고 있어서...(北京よりずっと南側だったけど, 海に面して…。)
마음이 아픈 게 훨씬 오랫동안 날 못살게 굴어요.(心を痛めるのがはるかに長い間私を苦しめます。)
d) “지난 기억들도 소중한지만 앞으로 우리가 같이 만들 기억이 훨씬 더 많잖아.”(「過去の思い出も大事だけど, これから私たちが一緒に作っていく思い出がずっと多いじゃないか

。）」

국민연금에 비해 훨씬 덜 내고 더 받게 돼있는 공무원연금, ….(国民年金に比べてはるかに少なく払って, より多くもらうようになっている公務員年金, …。)

떡장 같은 구름이 끼어 있어서 날은 어느 때보다도 훨씬 일찍이 어두웠다.(墨のような雲が出ていて, いつもよりもずっと早めに暗くなった。)

신부가 이번에는 훨씬 또렷이 말했다.(神父が今度ははずっとはっきりと言った。)

(23a)は, 「좋다(いい)」, 「넓다(広い)」, 「젊다(若い)」, 「불안하다(不安だ)」という事柄の外面的あるいは内面的状態を表す形容詞と共起している例である。動詞修飾の場合には, (23b)の「나아지다(よくなる)」, 「지나다((時間)過ぎる)」のように事態あるいは時間の変化を表す動詞と共に用いてその変化の程度がいっそう大きいことを強調するのが普通である。数量副詞的な用法は「훨씬」にはない。また名詞と共起する場合には, (23c)のように位置関係や時間を表す表現と用いられ, 時間的あるいは空間的に遠く離れていることを意味することが多い。副詞との共起に関しては, (23d)のように「훨씬」が「더(もっと)」や「덜(より少なく)」を強調するために用いられるのが基本的な用法である。しかし, 「더(もっと)」と共起できる副詞はすべて「훨씬」とも共起できる。したがって, 「일찍이(早く)」, 「또렷이(はっきり)」のような副詞と共起する場合には, 「훨씬 더」の「더」が省略されたものと解釈することもできる。

以上の共起関係を品詞ごとにまとめると次のとおりである。

	名詞		動詞			形容詞		副詞	
	状态的	具象的	動作的	感情的	状态的	感情的	状态的	「한층」類 +副詞	副詞 + 「한층」類
한층	—	—	—	—	+	—	—	±	—
한결	—	—	—	—	±	—	±	±	—
훨씬	+	+	—	—	+	—	+	+	—

4.2.3 「유독」類

「유독(ひときわ)」類には, 「유독(ひときわ)」, 「유난히(ひときわ)」, 「유달리(格別)」の3語を取り上げる。辞書には次のように記述されている。

- 유독: 나머지 것들과는 다르게(他のものとは違って), 홀로(ただ独り), 별나게(普通と違って)
- 유난히: (다른 것에 비하여) 매우 두드러지게((他のものに比べて)非常に際立って)
- 유달리: 보통 이상으로 특별하게(普通以上に特別に)

(1) [유독] (ひときわ, 目立って, ただ独り, ただ一つ)

「유독」は, 漢字語の「唯独」が強意語に転用されたもので, 多くのものの中で一つだけが

格別に目立つことを意味する。使用頻度はそれほど高くなく、拾った用例数も少ない。

- (24) a) 시커먼 시멘트 덩어리의 한가운데에서 유독 환하게 불을 밝힌 그 집은 분명 자신의 아파트였다. (黒いコンクリートの塊の中でひとときわ明るかったその家は確かに自分のアパートだった。)
- 그 대문이 유독 기억에 선명한 것은 그 대문을 안에서 열 때는 언제나 희망이었지만 들어와 빗장을 걸 때마다 절망이었기 때문이다. (その門が特に記憶に鮮明なのはその門を中から開くときはいつも希望だったが、入ってかんぬきをかけるときはいつも絶望だったからだ。)
- b) 소중한 한 시절을 만지듯 가만가만 살피던 그에게 그중 한 장이 유독 눈에 띄었다. (大事な一時の記憶を確かめるようにそっと見ていた彼の目に特に一枚(のレコード)が留まった。)
- c) 다른 사람들은 모두 친구나 의형제를 맺는데, 유독 옹육 들어간 코 때문에 아무도 샘 할아버지에게는 친구가 되어 주려고 하지 않았습시다. (他の人たちはみんな友達が兄弟分になるのに, 目立ってぼこんとへこんだ鼻のせいで誰もサムおじいさんとは友たちになろうとしませんでした。)

「유독」は, (24a)の「환하다(明るい)」, 「선명하다(鮮明だ)」のような形容詞や(24b)の「 눈에 띄다(目立つ)」のような状態性の動詞と共起して, 事柄の状態が他の何にもまして際立っていることを表す。名詞と共起する事例は拾えなかったが, 条件付きで可能である。

- (25) a) *수미는 유독 미인/부자이다(스미는ひとときわ美人/金持ちだ)
*수미는 유독 미인/부자가 되다(스미는ひとときわ美人/金持ちになる)
- b) 수미는 유독 미인/부자가 되고 싶어하다(스미는ひとときわ美人/金持ちになりたがる)
결과는 유독 우호적/절망적이다(結果はひとときわ友好的/絶望的だ)

(25a)의 「미인이다(美人だ)」, 「부자이다(金持ちだ)」のような表現は状態性の意味を持ち程度性もあるが, 「유독」によって修飾されない。これを「名詞+이/가 되다(～になる)」のような変化表現に変えても不自然さは変わらない。しかしながら, (25b)のように願望表現「名詞+이/가 되고 싶다(～になりたい)」のような表現に変えると自然な文になる。接尾辞「적」が付いた「우호적(友好的)」, 「절망적(絶望的)」のように状態を表す語とは自由に共起する。

「유독」にはさらに, 「もっぱらそれだけ」の意味で連体的に用いる用法がある。

- (26) 세월이 유독 아내만을 비켜 흘러간 듯했다. (歲月が唯一妻だけを残して流れたような気がした。)

(26)の「유독」は, 「아내(妻)」を対象になる唯一のものとして限定する機能を果たしている。これが「유독」の基本的な用法であり, 強意語的な用法はこれから発展したものであると考え

られる。

以上に見たように, 強意語としての「유독」は何らかの状態が特に際立っていることを表す。したがって, 「달리다(走る)」, 「먹다(食べる)」のような動作性を内包する語とは直接に結びつかない。このような動詞と共に起するには, 次のように「빨리(速く)」, 「많이(多く)」, 「잘(よく)」などの副詞が介在しなければならない。

- (27) *유독 달리다(ひととき走る) ⇔ 유독 빨리/잘 달리다(ひととき速く/よく走る)
 *유독 먹다(ひととき食べる) ⇔ 유독 많이/잘 먹다(ひととき多く/よく食べる)

(2) [유난히] (ひととき, 際立って, 特別に)

「유난히」は, 形容詞「유난하다(際立っている)」に副詞形接尾辞「이」が付いて派生した語である。「유독(ひととき)」, 「유달리(格別)」とほぼ同義であるが, これら2語より一般的でよく用いられる。「유독(ひととき)」は一つの物事に焦点を合わせてそれが特にどうだこうだということを表すのに対して, 「유난히」はある事柄の状態に焦点を合わせて, その状態が格別に甚だしいということの意味する。

「유난히」の共起関係を見ると, 形容詞と共に起る場合が多く, 名詞と副詞の場合は本稿の言語資料の中で実例は見当たらなかった。

- (28) a) 그중 “으악” “으악”하는 소리가 유난히 크게 들렸다.(その中で「あっ, あっ」という声
 がひととき大きく聞こえてきた。)
 아버지가 쓰시는 말씀 중에 유난히 많은 게 있었는데, ‘관계로’라는 말이였다.(お父さんが使う言葉の中で特に目立つのがあったが, ‘わけで’という言葉だった。)
 뽀얀 얼굴에 유난히 새까만 눈동자가 반짝반짝 빛났다.(白い顔にひととき真っ黒な瞳が
 きらきら光った。)
 고운때가 가신 아버지의 얼굴이 유난히 까칠해 보였다.(艶がなくなった父の顔が際立っ
 てがさがさして見えた。)
 여름이면 땀띠가 유난히 심한터라 형은 아예 속옷을 입고 다니지 않는 버릇이 있
 었던 것이다.(夏になるとあせもが特にひどいので, 兄は下着を着ない癖があったのだ。)
 내가 홍콩 가는 비행기 안에서 유난히 피곤하고 도무지 신명이 나지 않는 것도
 여행을 연달아 했기 때문이라기보다는...(私が香港行きの飛行機の中で特に疲れてま
 ったく上機嫌にならなかったのも旅行が続いたからというよりは…。)
 b) 산비탈을 헐어 일군 산밭에는 보리가 눈을 비집고 새파랗게 돌아난 것이 유난히
 눈에 띄었다.(山岸を崩して耕した山畑には麦が雪の中から青く出ているのがひととき目立
 った。)
 흥 사장은 유난히 놀라 사색이 되었던 한결의 표정을 놓치지 않았다.(ホン社長はひと
 とき驚いて真っ青になったハンギョルの表情を逃さなかった。)

「유난히」は(28a)のように形容詞と共起するのが普通であり, 「크다(大きい)», 「많다(多い)», 「새까맣다(真っ黒だ)», 「까칠하다(やつれる)», 「심하다(ひどい)」のような性状形容詞や「배가 고프다(お腹が空く)», 「피곤하다(疲れる)」のような感覚形容詞を修飾し, その状態が特に目立っていることを表す。(28b)は「유난히」が動詞「눈에 띄다(目立つ)», 「놀라다(驚く)」など状態性の意味を持つ動詞を強調している例である。「유독(ひときわ)」と同様に, 動作動詞と共起するには, 適当な副詞を介さなければならない。

- (29) *요즘 유난히 운동을 하다(最近はひときわ運動をする)
⇔ 요즘 유난히 운동을 잘/많이 하다(最近はひときわ運動をよく/多くする)
*요즘 유난히 먹다(最近はひときわ食べる)
⇔ 요즘 유난히 잘/많이 먹다(最近はひときわよく/多く食べる)

名詞の共起関係においても「유난히」は「유독(ひときわ)」と非常に似ていて, (25)の例に示したのと同じ制約が認められる。

(3) [유달리] (格別に, とりわけ, ひときわ)

「유달리」は, 他の事柄とは相当異なることを意味する形容詞「유다르다(格別だ, 違っている)」に副詞形接尾辞「이」が付いて派生した語である。使用頻度は「유난히(ひときわ)」より顕著に落ちる。

- (30) 정작 조반을 먹고 나니, 오늘은 유달리 날씨가 따뜻했습니다. (いざ朝ご飯を食べたら今日は格別に暖かい日でした。)
독신으로 지내는 내 친구 하나가 여성들에게 남달리 흥미를 많이 갖는 거와 같이 나는 술에 대해 유달리 호기심을 가지고 있다. (独身である私の友人が女性に人一倍興味を持っているのと同じく, 私は酒に特に好奇心を持っている。)

実例はこの2例しか見つからなかったが, 「따뜻하다(暖かい)」あるいは「가지다(持つ)」のように状態を表す語, 数量を表す語と共起する。他に次の作例から分かるように, 「유달리」はかなり自由に様々な語と共起できる。(31a)では感情を表す形容詞・動詞と, (31b)では名詞と, (31c)では副詞と共起している。

- (31) a) 이 이야기는 유달리 슬프다(この話はとりわけ悲しい)
 아이는 유달리 사과를 좋아하다(子どもはとりわけりんごが好きだ)
 b) 수미는 유달리 부자집이다(스미はとりわけ金持ちだ)
 결과는 유달리 절망적이다(結果はとりわけ絶望的だ)
 c) 오늘따라 유달리 더 귀엽다(今日に限ってとりわけかわいい)
 눈이 유달리 많이 오는 것 같다(雪がとりわけよく降っているようだ)

「유독(ひときわ)」や「유난히(ひときわ)」とは異なり、「유달리」は状態性の語とも動作性の語とも特に制限なく共起関係を結ぶ。また、名詞を修飾する場合の制約もない。

以上の共起関係を品詞ごとにまとめると次のとおりである。

	名詞		動詞			形容詞		副詞	
	状态的	具象的	動作的	感情的	状态的	感情的	状态的	「유독」類 +副詞	副詞 + 「유독」類
유독	+	-	-	-	+	-	+	+	-
유난히	+	-	-	+	+	+	+	+	-
유달리	+	+	+	-	+	+	+	+	-

5. 終わりに

本稿では韓国語の比較の程度を表す語を中心に共起関係の様相を実例に基づいて考察した。辞書調査と使用頻度に基づいて比較の程度を表す 11 語を選定し最上級を表すものと比較級を表すものに分け、さらに比較級を表すものは「더(もっと)」類、「한층(いっそう)」類、「유독(ひときわ)」類の3つに分けて共起様相を確認した。本稿では「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」の品詞別の共起関係を確認した上、意味内容の共起関係を分析した。共起関係は各表にまとめたとおりであるが、最上級を表す2語は文体の差は見られるが、共起様相はよく似ていることが確かめられた。比較級を表す3つのグループでは「더(もっと)」類が最も共起制限が認められず多様な語と共起の可能性が見られた。「한층(いっそう)」類の「한층(いっそう)」「한결(ひとしお)」は「훨씬(ずっと)」に比べ共起制限が強く、状態の変化を表す語と主に共起関係が見られた。「유독(ひときわ)」類では、「유독(ひときわ)」は主に一つの物事に焦点を合わせる一方「유난히(際立って)」「유달리(とりわけ)」は事柄の状態に焦点を合わせて用いられる。前者より後者の方がより多様な語と共起関係が見られた。

本稿では、韓国語の比較の程度を表す語に考察対象を限って、共起状況について概略的なことを把握することに止まっている。しかし、強意語の用法に関してより明確な説明を与え韓国語学習者の理解を高めるためにも、日本語との詳細な対応関係を記述し、両言語の共通点と相違点を示すことが欠かせないと考える。これに関しては今後の課題として残したい。

注

- 1) 本稿では数十万語以上もの語が収録されている一般的な大規模辞書は除外することにする。その中には、古語、方言などのような特殊な語も含まれていると見られるためである。
- 2) 本稿の調査対象とした韓国語の辞書に載っている比較の程度を表す語の目録である。
가득(さらに), 가득에(さらに), 가득이(さらに), 가득이나(さらに), 가일층(なお一層), 가장(最も), 각별히(格別)に, 갈수록(ますます), 거익(ますます), 게다가(さらに), 게다가가(さらに), 나날이(日ごとに), 날로(日ごとに), 남달리(並外れて), 단연(ずば抜けて), 단연코(ずば抜けて), 단연히(断然に), 더(もと), 더구나(さらに), 더군다나(さらに), 더더구나(さらに), 더더욱(もっと), 더우기(さらに), 더우기나(さ

「比較の程度」を表す韓国語の強意語の一考察 (金賢珍)

らに), 더욱(もっと), 더욱이(もっと), 더욱이나(もっと), 더욱더(もっと), 더욱더욱(もっともっと), 더한층(より一層), 덜(少なく), 별달리(取り立てて), 보다(より), 비교적(比較的), 무장(いよいよ), 우극(もっと), 월등(桁外れ), 월등히(桁外れに), 유난스레(ひときわ), 유난히(ひときわ), 유달리(とりわけ), 유독(ひときわ), 유별스레(とりわけ), 유별히(格別), 의외로(意外に), 일층(一層), 제일(最も), 짙(最も), 특별히(特別に), 특히(特に), 한결(ひとしお), 한층(一層), 현격히(かけ離れて), 현저히(顕著に), 훨씬(もっと), 훨씬(もっと)

- 3) 国広(1982 : 187-197)は意味分析における分析資料の問題を論じて方言, 文語(古語), 逸脱した用法, 特別な効果を狙って使われた用法などに生じる問題を指摘している。本稿では国広の指摘を踏まえつつ, できるだけ強意語の標準的用法から逸脱しないように注意を払いつつ考察を進めることにする。
- 4) 「比較の程度」を表す強意語に関する辞書の定義は『延世韓国語辞典』(斗山東亜, 1998)を参考とし, 各強意語の日本語訳は辞書『朝鮮語辞典』(三省堂, 1993)を参考とする。
- 5) 例文の出典は 3.2 に示した調査資料である。出典の個別表記は省略する。

参考文献

- 国広哲彌(1982)『意味論の方法』大修館書店
- 八木孝夫(1987)『程度表現と比較構造』大修館書店
- 油谷幸利(2005)『日韓対照言語学入門』白帝社
- 油谷幸利他編(1993)『朝鮮語辞典』小学館
- 서정수(1991)「정도부사에 대한 국어학사적인 조명과 그 분류에 대해」『연세어문 23』연세대국어국문과 pp. 219-266
- 손남익(1995)『국어부사연구』博而精
- 정교환(1987)「국語副詞研究」『어학논지』創刊号 창원대학교 어학연구소 pp. 19-32
- 최홍렬(2005)『정도부사의 유의어연구』図書出版
- 한 길(1983)「정도 어찌씨에 대한 의미론적 연구」『새국어연구 37』한국국어교육학회 pp. 372-391